

平成29年度 学校評価 評価書

日之影町立宮水小学校

4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

評価項目	達成目標と方策	自己評価				学校の自己評価所見	第三者評価
		児童	保護者	教師	全体		
学力の向上	学習の基盤となる「聞く力」を身に付けさせるために重点事項に位置付けた取組をする。	3	3	3	3	○教科等の授業だけでなく、集会活動や学校行事等においても全職員共通理解のもと指導を行った。児童の聞く態度に意識の高まりが見られる。そのことが、表現力の意識の高まりにつながり、特に音声言語での表現の高まりにつながった。	3
	基礎・基本を身に付け、自ら学ぶ意欲をもった児童を育成するために、校務分掌の機能を生かした学力向上の取組の充実を図る。	3	3	2	3	○授業改善に焦点化し主題研究を中心にを行った。CRTテストにおいて全国平均を上回ることができた、また、昨年度よりも全校平均を向上させることができた。思考力の向上は今後も課題である。	2
	専科指導教員や特別支援教育支援員との連携を図り、校内指導体制を整備しながら、個々の課題をより明確にして、個に応じた指導や個別指導を積極的に行っていく。	2	3	3	3	○特別支援員と連携した指導や個別指導の充実により、CRT等において、学力の個人差が少しずつなくなってきた状況が見られた。	2
	校内テストを行い、児童に目標をもって学習に取り組ませるとともに、継続的に児童の実態を把握しながら、学習内容の定着に取り組む。	2	3	2	2	○通常の学期末テストだけでなく、思考力活用に関わるテストも実施したことにより、思考力の実態も把握でき、授業改善につなげることができた。今後は、授業改善による思考力の向上をさらに進めていく。	2
豊かな心の育成	生活の基盤となる「あいさつ」を身に付けさせるために、重点事項に位置付けた取組をする。	3	4	4	4	○児童会活動を中心とした「あいさつ運動」や「あいさつ名人」の取組により、特に高学年の意識の高まりが見られた。そのことが、下級生にも良い影響を与えることができた。また、家庭地域でのあいさつの向上も見られ、保護者も明るい学校の雰囲気を感じられるようになってきている。	3
	学級経営の充実や教育相談の実施により、望ましい人間関係の醸成を図ったり、いじめ・不登校の解消にあたったりする。	2	3	3	3	○せせらぎ委員会を活用しながら、いじめに対する認知の共通理解を図ることができた。また、児童一人一人と丁寧に対話できるよう教育相談の時間の確保にも努めた。全職員でいじめの早期発見解決の意識を高めることができた。	3
	児童会活動や学校行事を通して、よりよい学校生活にするために、主体的に活動できる力を育成する。	3	3	3	3	○悩みアンケートや教育相談により、良好な人間関係が醸成されている。また、児童に主体的に取り組ませようとする教師の意識も高まり、児童が司会を進める等の工夫が見られる。	3
	気持ちのよい学校生活のために、履き物を揃えることや身の回りの整理整頓をすることを身に付けさせる。	3	3	3	3	○現場での指導を徹底したり、学級の係活動を活用して児童に主体的に取り組ませたことにより、意識や実践の高まりが見られる。	3
たくましい心身の育成	健康的な生活習慣の基盤となる「規則正しい生活」を身に付けさせるために、重点事項に位置付けた取組をする。	2	3	2	2	○養護教諭、栄養教諭と学級担任が連携を図り、個別指導を充実させたことにより、個に応じた指導を行うことができた。個人差はあるものの改善してきた児童も見られる。	3
	体力テストの結果をもとに個に応じた到達目標を設定し、教科体育では体つくりの運動に取り組んだり運動量を確保したり等して、体力の向上を図る。	2	3	3	3	○体育授業への位置付け、業前、休み時間などの活用など、継続的に行うことができた。	3
	体力向上プランを基盤として、運動の日常化と継続化を図るためにラジオ体操やなわとび運動、外遊びを推進する。	3	3	3	3	○体育タイムを朝の活動として位置づけた、教科体育や学校行事の中でも重点内容として取り組むことができた。なわとび等、多くの児童が積極的に取り組む姿が見られた。	3
	日常的に立腰指導を行い、正しい姿勢を習慣化させる。	2	3	2	2	○立腰指導は、折に触れて繰り返し指導していきながら、より一層の習慣化を目指す。個人差は大きい。	2